

高校運動部活動顧問教師の暗黙知的指導に関する研究

大西 広晃 (大分大学)

1. 目的

暗黙知とは、運動指導で頻繁に用いられるが、「人によって伝わり方(伝え方)が違う」「わかったようでわからない」といった困難さが、発する側(指導側)にも受け取る側(生徒、部員)にも付随する。つまり、暗黙知的指導を行うことは容易ではない。本研究では、高等学校部活動顧問教師を対象に面接調査および質問紙調査を実施し、運動部活動における暗黙知による指導の適用性について検討した。

2. 研究方法

福岡県内高等学校の運動部活動顧問教師 35 名を対象に、無記名自記式の質問紙調査票を配布し、回答を得た。有効回答率は 100%であった。

- 1) 調査時期：2018 年 11 月 27 日～12 月 8 日
- 2) 調査内容：顧問教師の属性、暗黙知的指導の実態、部活動に対する意識、コミュニケーション・スキルの全 4 項目。
- 3) 分析方法：全ての変量は、基礎統計量を算出し、群間比較には、Student の T 検定、Mann-Whitney の U 検定および一元配置分散分析と Kruskal-Wallis 検定を用いた。また、暗黙知的指導の実態と関連要因との関連性については、Spearman の順位相関係数を算出した。暗黙知項目で得られた自由記述データは、キーワードを抽出して分析に用いた。

3. 結果と考察

1) キーワード抽出から得られた知見

本研究では、28 項目の自由記述データが得られた。得られた自由記述データから、「力強さ(6 項目)」、「素早さ(10 項目)」、「力の向き(4 項目)」、「動作のコツ(5 項目)」、「動作の柔軟さ(2 項目)」、「出力のコントロール(5 項目)」、「タイミングのコントロール(8 項目)」、「動作の大きさ(2 項目)」、「出力のタイミング(6 項目)」、「道しるべ(6 項目)」、「重心の位置(7

項目)」、「動作の姿勢(4 項目)」、「プレッシャーをかける(3 項目)」、「気持ちの切り替え(2 項目)」、「ボールの回転(2 項目)」、「力の伝達(1 項目)」の計 16 つのキーワードが得られた。また、1 項目の自由記述データから、最大で 6 つのキーワードが抽出された。このことから、暗黙知は、複数の知識が合わさり、包括的知識として伝播していると考えられた。

2) 暗黙知的指導の実態と関連要因との関連性

競技生活暗黙知と理解力および他者受容の間に有意な正の相関($r=0.39$, $P<0.05$)が示された。言語コミュニケーションは、「意味読解→意味付与→意味読解」(大崎, 2009)というプロセスで行われるが、顧問教師の暗黙知を用いた指導も同様のプロセスで理解されていると考えられる。換言すれば、顧問教師が部員一人ひとりへの指導を模索し継続するうちに、自身の暗黙知が部員に伝播し、部員がそれぞれの理解をしていると考えられた。

4. 結論

本研究結果を集約すると、運動部活動の指導レベルを向上させるためには、顧問教師の暗黙知が、発する言葉としての伝播性だけではなく、発するタイミングや継続性などが重要であることが示唆された。一方で、上に示したように、言語コミュニケーションには普遍的なプロセスが介在するため、このプロセスの過不足や精錬度の高低などにより、折角の暗黙知的な指導や教育も十分な理解には至らない可能性が生じることになる。したがって、今後、本研究知見をさらに発展させるためには、顧問教師が暗黙知を獲得する努力過程とともに、顧問教師が部員の人間性などをどのように理解しようとしているのか、などを詳細に検討する必要がある。

5. 参考・引用文献

- 1) 大崎正瑠 (2009) 暗黙知を理解する, 東京経済大学人文自然科学学論集, 127, pp. 21-39